

私の著作活動 シリーズ 2

（『イメージ&カテゴリーの英単語』、『英語教師のための効果的語彙指導法—認知言語学的アプローチ—』、『認知意味論の諸相—身体性と空間の認識—』）

京都外国語大学大学院外国語学研究所
異言語・文化専攻（言語教育研究領域）
博士後期課程2年生
京都外国語専門学校非常勤講師
太成学院大学兼任講師

森山 智浩

「電光石火」の如く。手元の辞書には「いわずまや火打石の火のひらめきのように、きわめて短い時間。転じて、行動などが非常に迅速なさま」と記載されているが、従来の語彙学習指導に対する抜本的構造改革の具現化を目的とした本書作成への迅速な決断を形容するには、まさにこの言葉が相応しい。時は2001年12月、雷鳴が曇天に轟き、雨足が激しい日の事であった。

当時の私は某高校で200人近くの高校生を中心に、日頃の学校授業で生まれた英語の様々な疑問に一人ひとりで対処する業務を担当する一方、大人数の授業に対しても「認知言語学」というアカデミーの知識を（学生達が真に欲する情報に応える実践的な形で）英語教育に導入・融合させることに腐心していた。多数の中学生を指導していた過去の経験も踏まえると、学生達の次のような心の叫びと反応がまざまざと確認された時期でもあった：

- ① 英語分野の中でも特に「語彙習得」に苦しんでいる。
- ② 「英語表現＝和訳」式の丸暗記偏重の学習指導で英語そのもののへの興味を失っている。
- ③ 他方、英単語の多義のつながり、英熟語と呼ばれる連語表現の意味のからくりがわかれば目を輝かせて話に耳を傾け、さらなる知的欲求を満たすために自ら学習を進める。
- ④ ③に加え、日本語表現との概念的比較も交えながら自身の日常経験に基づいた語彙の体系化を行なって学習指導をすれば、丸暗記のそれよりも記憶の定着・持続を図ることができる。

そのような状況下、運命の日は何の前ぶれもなく足早にやって来た。当日は全ての業務が終了していたが、校舎閉校時ぎりぎりまで或る女子学生が一人残って自習し、大学受験に備えて語彙を勉強していた。そのような折、英語教育の実際の現場を査察される目的で各校舎を廻られていた本学教授の上野義和先生が豪雨を避けるためにそこへ足を運ばれた。今から考えれば、まさに運命が引き合わせた瞬間であると思えない。以下は「英語表現＝和訳」式の丸暗記の自習で苦痛に満ちた表情を浮かべる女子学生に声をかけられた上野義和先生に、涙ながらに悲痛な心の叫びを訴えた彼女の言葉が今でも記憶から離れない一場面である：

「英語とは暗記力が優れている人のための科目なのではないですか？」

「英単語とその日本語訳の丸暗記を強要される度に英語が嫌いになってしまいます…」

「勉強しても勉強しても語彙が覚えれない…こんな私は学ぶ価値がないのでしょうか？」

この直後、上野教授は傍らに居た私に厳しい表情でおっしゃられた。「森山君、従来の和訳偏重主義の英語語彙学習指導を抜本的に改革することに寄与する著書を早急に作成しなければならない。明日から始めよう」と。まさに、上野義和・森山智浩共著『イメージ&カテゴリーの英単語』の構想が産声を上げた瞬間である。窓の外を見ると、あれだけ激しかった雨は止み、月光が不思議と優しく感じられた。

電光石火の如く本書の作成計画が決定し、翌日からは約5,000にも及ぶ英単語・連語表現の多義性のメカニズム・意味のからくりを歴史・認知言語学の2つの側面から徹底的に分析して人間の自然な日常経験の相に基づいた体系化を行なう作業が始まり、約8ヶ月後には本書が世に出ることになる。そして、本書が基盤になって上野義和・森山智浩他著『英語教師のための効果的語彙指導法—認知言語学的アプローチ—』が2006年4月に発刊されることとなった。両教育書には「認知言語学の諸原理の実践」をコンセ